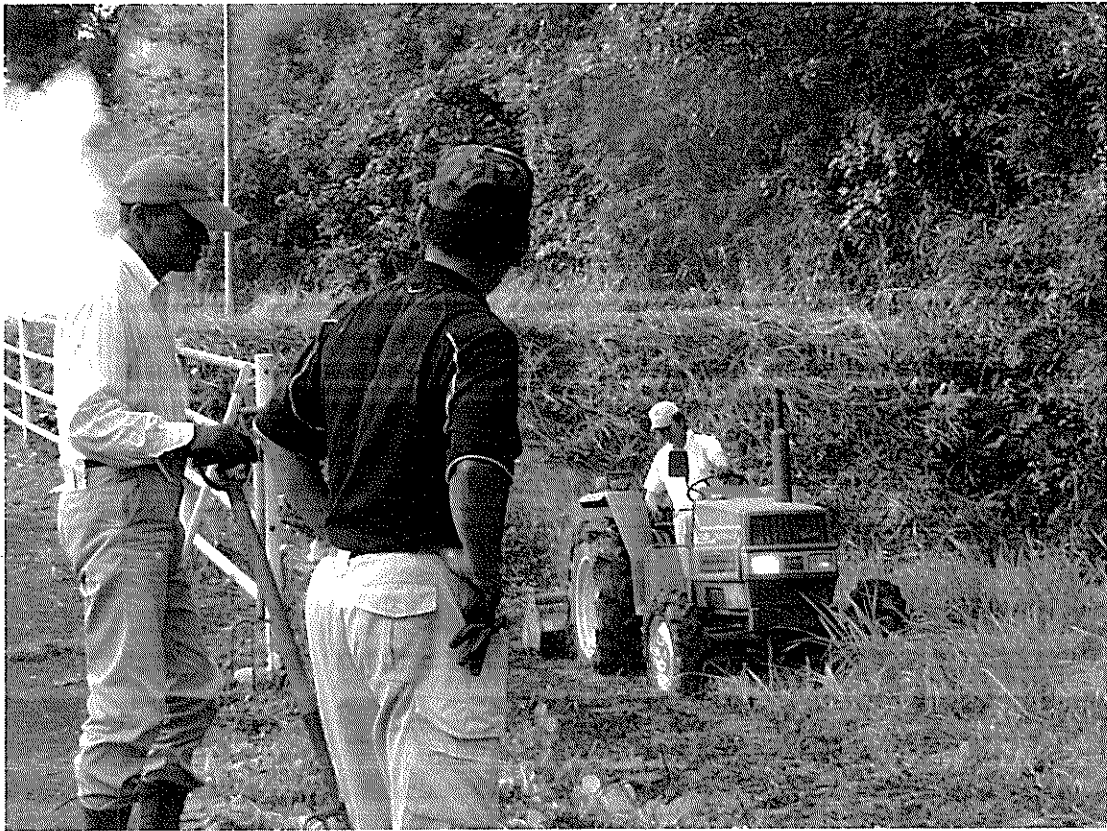


平成30年度

# 農業委員会事務報告



▲農業委員による農地適正管理PR活動の様子

農業委員会

## 農業委員会関係

### 総 論

農業委員会は、「農業委員会等に関する法律（昭和26年法律第88号。以下「農業委員会法」という。）」に基づき設置される行政委員会であり、農地法その他の法令により定められた業務を執行する。平成28年4月1日に施行された「農業協同組合法等の一部を改正する等の法律」により農業委員会法も改正され、これまで任意業務とされていた「農地等の利用の最適化の推進」、すなわち、担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進による農地等の利用の効率化及び高度化の促進が農業委員会の必須業務とされた。

本村においても農業所得の減少、農業担い手の高齢化が進む中、遊休農地の増加や担い手不足が懸念されている。農業の持続的な発展を通じ、食料の安定供給の確保や国土の保全を図り農村の振興を推進していくためには、農地利用の集積などの農地対策及び農業に意欲と能力のある人材の確保・育成に更に努めていく必要がある。

また、農地法等の許可や意見などの決定権を持つ農業委員と、現場活動を主とする農地利用最適化推進委員の連携により、農地等の利用の最適化の推進に向けて、より地域農業に密接した活動が求められており、それに応える実績を積み上げていかなければならない。

本年度の活動としては、農地関係許可申請に対する許可事務、農業者年金事業事務及び加入促進活動として対象者への戸別訪問の実施、未墾地登記事務、農業経営基盤強化促進法に基づく土地流動化の推進、優良農地の確保と農地の無断転用を図るための利用状況調査（農地パトロール）及び利用意向調査、農地利用最適化に係るアンケート調査、農地集約促進のための制度周知活動、農業委員の先進地研修、農地法第2条第1項に規定する農地に該当するか否かの判断（非農地化判断）、平成30年11月の農地法改正による所有者不明農地（相続未登記農地）の利活用に係る探索・公示の手続きなどを行った。

(1) 農業委員会の構成

農業委員 8 名、農地利用最適化推進委員 7 名の合計 15 名（うち、女性農業委員 2 名。女性農地利用最適化推進委員 0 名）の構成。

毎月総会を招集し、農地法並びに経営基盤強化促進法に基づく許可申請を慎重審議し処理を行った。この他、当面する農政の諸問題についての協議をおこない、女性農業委員ネットワーク活動などによる他自治体農業委員との交流や各種研修会などにも参加し、知識を深めた。

農業委員・農地利用最適化推進委員名簿

(任期：平成 29 年 7 月 20 日～令和 2 年 7 月 19 日)

議席	職名	氏名	担当区域	農地利用最適化実践チーム(※)
1	会長	白川 正博	1～2区	山田A地区
2	会長職務代理者	田上 喜三郎	3～4区	山田A地区(リーダー)
3	農業委員	淵田 和代	中立委員	山田A地区
4	農業委員	又村 元規	5～7区	山田A地区
5	農業委員	小崎 健二	10～12区 川辺川造成区	山田B地区(サブリーダー)
6	農業委員	松本 聖司	15～16区	万江地区(リーダー)
7	農業委員	本田 りか	13～14区	万江地区(サブリーダー)
8	農業委員	簗田 和広	8～9区	山田B地区(リーダー)
	職名	氏名	担当区域	農地利用最適化実践チーム(※)
	農地利用最適化推進委員	平山 春己	1～3区	山田A地区(サブリーダー)
	農地利用最適化推進委員	蕨野 正信	4～7区	山田A地区(サブリーダー)
	農地利用最適化推進委員	嶋原 誠一郎	8～9区	山田B地区
	農地利用最適化推進委員	下拂 勝	10～12区	山田B地区
	農地利用最適化推進委員	平瀬 憲一郎	13～14区	万江地区(サブリーダー)
	農地利用最適化推進委員	松岡 信行	15～16区	万江地区
	農地利用最適化推進委員	中村 賀津男	川辺川造成区	山田B地区(サブリーダー)

※旧制度時は、「農地集積対策チーム」「耕作放棄地対策チーム」「農業振興対策チーム」の目的別チーム編成であったものが、新制度により地区別チーム編成となったもの。

◎平成30年度における、農地法に基づく許可申請の内訳は、次のとおり

許可条項	地目	筆数	面積 (㎡)	内 訳			
				種 別	件数	筆数	面積 (㎡)
農地法 第3条	田	15	16,039.00	所有権移転	2	2	1,181.00
				賃貸借権設定	2	2	4,085.00
				贈与	2	11	10,773.00
	畑	14	9,606.00	所有権移転	6	8	6,825.00
				賃貸借権設定	1	3	1,363.00
				贈与	1	3	1,418.00
小計	29	25,645.00		14	29	25,645.00	
農地法 第4条	田	0	0.00		0	0	0.00
	畑	0	0.00		0	0	0.00
	小計	0	0.00		0	0	0.00
農地法 第5条	田	0	0.00	個人住宅	0	0	0.00
				その他(駐車場等)	0	0	0.00
	畑	1	221.00	個人住宅	0	0	0.00
				その他(資材置場)	1	1	221.00
	小計	1	221.00		1	1	221.00
基盤強化	田	80	89,312.00	賃貸借権設定	36	77	85,354.00
				使用貸借権設定	1	3	3,958.00
				所有権移転	0	0	0.00
	畑	31	38,200.00	賃貸借権設定	6	22	33,868.00
				使用貸借権設定	7	9	4,332.00
				所有権移転	0	0	0.00
小計	111	127,512.00		50	111	127,512.00	
農地法 第18条	田	2	2,481.00		2	2	2,481.00
	畑	0	0.00		0	0	0.00
	小計	2	2,481.00		2	2	2,481.00
総 計		143	155,859.00		67	143	155,859.00

## (2) 農業者年金事業

新制度は、加入者数や受給者数といった基礎率に左右されない積立方式（任意加入）となり、農業上の要件を満たせば誰でも加入できる。また将来の年金受給に当たっては、納めた保険料と運用益を年金原資とし、一定の年齢に達した時に受けとることになる。さらに、認定農業者や青色申告者等の意欲ある担い手に対しては、これも一定の要件はあるが国の保険料助成（政策支援）がある。家族経営協定を活用した後継者・配偶者の政策支援加入を推進する。

### ◎平成30年度の申請・届出件数

申請・届出の区分	件数	説明	
裁定請求	2件	経営移譲年金裁定請求	0件
		農業者老齢年金裁定請求	2件
		特例脱退一時金裁定請求	0件
		脱退一時金裁定請求	0件
		死亡一時金裁定請求	0件
死亡喪失	5件	受給権者死亡届 (未支給年金請求)	5件
返還	0件	加算対象農地返還届	0件
処分	0件	特定対象農地処分届	2件
		加算対象農地処分	0件
届出	0件	処分対象農地除外届出	0件
加入	0件	任意加入資格取得	0件
申出書	0件	期間該当	0件
		資格喪失	0件
取得	0件	資格取得	0件
		高齢継続	0件
諸届出	0件	証書紛失届	0件
現況届	54件	新旧老齢・特別老齢年金分	20件
		経営移譲・特例付加年金分	34件

## (3) 未墾地・既墾地の売渡並びに登記事務

戦後食料の増産と帰農促進を目的とする開拓事業を行うため、国が山林原野等の未墾地を取得し、これを開拓者などに売渡したが、開拓不要地や売渡し後の成功検査不合格のために国が買戻すなどして現在国が管理している。売渡・登記にあたっては、県と連携を図りながら業務を行っている。

#### (4) 農作業標準賃金の決定

人夫賃金や機械の借料等について、平成31年1月開催の下球磨地域農業振興協議会において検討が行われた。この金額をもとに平成31年2月総会においてに本村における金額の見直し及び承認を行い、農業委員会広報誌に掲載して周知を行った。

#### (5) 実勢借地料の情報

改正農地法第52条に基づき農業委員会で設定した地域ごとの実勢借地料の平均値、最高値、最低値を公表することになった。平成30年（平成30年1月1日～平成30年12月31日）においては、次の通りである。

##### ◎実勢借地料

##### 【田（水稲の部）10a当たり】

地区	平均額	最高額	最低額	データ数
山田地区	16,545円	21,000円	8,000円	65
万江地区	9,373円	10,000円	5,000円	17

##### 【畑（粟の部）10a当たり（山田地区）】

平均額	最高額	最低額	データ数
6,196円	8,000円	3,000円	5

##### 【畑（普通畑の部）10a当たり（山田地区）】

平均額	最高額	最低額	データ数
7,297円	10,000円	5,000円	19

#### (6) 村内における耕地面積

##### ◎平成31年3月末現在

(㎡)

所在地	田 (3,007筆)	畑 (5,915筆)	その他 (8筆)	計 (8,930筆)
山 田	1,889,512.78	3,332,544.58	1476.28	5,223,533.64
万 江	330,226.09	773,914.18	2,616.00	1,106,756.27
合 計	2,219,738.87	4,106,458.76	4,092.28	6,330,289.91

(7) 農地利用状況調査の結果（平成30年11月調査 12月末現在）

区 分	面 積 (㎡)	筆数
1号遊休農地（A分類）	228,773	363
2号遊休農地	338,707	374

※1号遊休農地・・・現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地（再生利用が可能な荒廃農地〔A分類〕に該当する農地）

※2号遊休農地・・・農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地

(8) 非農地判断（農地法第2条第1項の農地に該当しない判断）

登記地目	件数	筆数	面積 (㎡)
田	2	5	3,031
畑	0	0	0

※農地法第2条第1項

この法律で「農地」とは、耕作の目的に供される土地をいい、「採草放牧地」とは、農地以外の土地で、主として耕作又は養畜の事業のための採草又は家畜の放牧の目的に供されるものをいう。

(9) 農業委員会先進地研修の実施

3年に1度、委員任期中に実施している先進地研修を行った。

視察先は、福井県池田町。池田町では地域循環型農村を目指し、家庭生ごみを堆肥化し町内のみでの販売や、環境に配慮した有機栽培を積極的に進め、町独自の認証制度「ゆうき・げんき正直農業」を創設するなど様々な取組でまちづくりの複合経営化が認められ、平成18年には第5回自治体環境グランプリで環境大臣賞を受賞している。

実 施 日：平成30年11月21日～23日（2泊3日）

研 修 先：福井県池田町、JA永平寺ほか

参加人数：11名（委員9名、村長、事務局長）